

愛知県支部

中小企業のものづくりに関する調査と改善事例

産業立国を謳っているわが国において、製造業が産業活力の基軸を担ってきた。特に中部地方はものづくり産業の一大集積地で各種のクラスターが生育し、それらが連携し拡大緊密化してきている。

このような中、愛知県支部で活動している工場管理（ものづくり）研究会において、ますます複雑化する製造業等の実態を俯瞰するとともに、実地で診断支援する中での企業の匂い・体温・肉声を掘り起こし、今後の診断支援業務に寄与するため本事業に取り組むこととし、プロジェクトを発足させた。

メンバーは商業系・工業系がほぼ半々であり、自分の得意とする分野での調査研究や実地での改善事例を月例研究会で発表している。今回、メンバーのうち15名（ゲスト1名を含む）が、これらの発表内容を報告書の形にまとめた。専門性などのバラツキや体系的に欠ける部分があるが、編集に際し生の声を重視し反映することに努めた。

本報告書の内容は、次の通りである。

- ・第1章 製造業等を取り巻く各種概況

中小企業における会社法の活用、中小企業の類型化と工場管理

- ・第2章 工場管理主要ツール

BOMと設計情報管理、見える化手法：I D E F 0、手作業へのT P M活動展開、生産現場ノウハウの活用、I S O / T S 1 6 9 4 9 の導入

- ・第3章 工場改善支援事例

製造部門のリードタイム短縮、プレス加工の生産性向上、組立工程の品質改善、出荷場のI T 化改善、自動車ディーラーのサービス工場改善、樹脂加工の現場管理改善、品質・環境・労働安全衛生の統合マネジメントシステム構築

- ・第4章 欧州ものづくり事情

北欧を中心とした自動車関連等企業の調査報告

“ものづくり”の報告には、当然ながら事例に関する図表やデータが大量に付随する。本報告書の作成に際し、月例研究会での発表以上に事例への匿名性の確保、図表やデータの正確性、内容の正当性等、細部に注意を配った。その一つひとつの作業は、まさしく“ものづくり”としての地味な仕事の積み重ねそのものであった。

本報告書が、多くの中小企業関係者に何らかの有益な示唆を提供することができれば、執筆者一同望外の喜びである。